



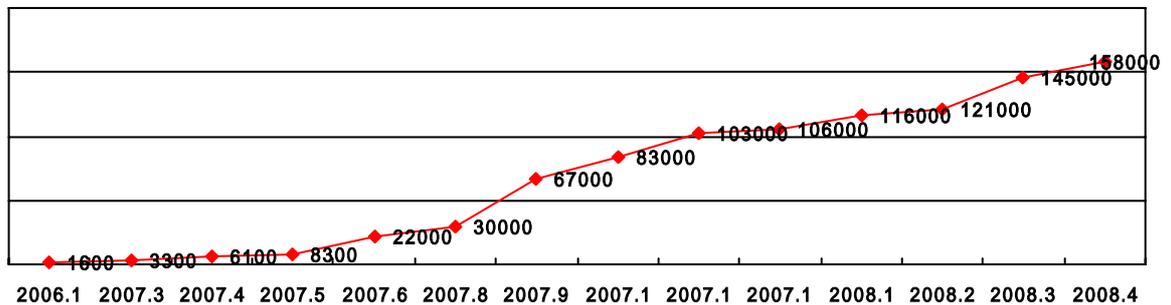
韓国KTのWIBRO普及状況と戦略

KDDI総研 特別研究員 趙 章恩

1 韓国KTのWIBROサービス加入状況

KTの発表資料によると2008年4月時点のWIBRO加入数は15万8,000回線となっている。2007年4月よりサービスエリアがソウル全域に拡大され、ノートパソコンからWIBROにアクセスできるUSBモデムが発売されてから、加入が急増している。

【図表1】 WIBRO加入推移（単位：回線）



（出典：KTの報道資料）

WIBRO商用化に先立ち行われたETRI（Electronics and Telecommunications Research Institute：韓国電子通信研究院）のWIBRO市場予測^④（脚注）では、2007年12月末時点で150万回線となっており、2008年4月時点で15万8,000人という加入数は、予測の約10分の1にも満たない。しかし、これにも関わらずKTはWIBRO契約数を前向きに評価している。

KTは、2007年4月からソウル全域にサービスエリアが拡大され、毎月1万回線に近いペースで加入が増加していること、また、2008年からHSDPAモデム加入数よ



④（脚注）

ETRIの市場予測によると、WIBROの加入数は2007年末時点で150万回線突破、2011年に少なくとも390万回線、順調な場合は最大2011年で1,070万回線。

り WIBRO 契約数が多いことに満足しているようである。2008年4月時点で、SK TelecomのHSDPAモデム「T LOGIN」10万6,127回線とKTFのHSDPAモデム「I Plug」3万8,000回線を足すと、HSDPAモデムの契約数は約14万4,000回線で、WIBROの15万8,000回線のほうが多くなっている^④（脚注）。

また、KTは今後の展望として、無料お試しを利用した契約者の間でWIBROの評価が高いため、正式加入者として残ってくれる可能性が高いとし、WIBRO加入の増加率は高まるとしている。

さらに、携帯電話の他にセカンドノートパソコンともいえるUMPC（Ultra-mobile PC）やナビゲーション付きPMP（Portable Multimedia Player）などの小型の個人端末を持ち歩く人が増えていることから、KTは、これらの端末にUSBモデムを差し込むだけで高速インターネットが使えるWIBROの需要は急増するに違いないとの前向きな見方をしている。

また速度を比べると、WIBROの下り24.8Mbps、上り5.2Mbpsに対して、HSDPAは下り14.4Mbps、上り1.4Mbpsと、下りは2倍、上りは4倍ほど差が開いている。料金面でも、WIBROはHSDPAの2分の1程度の料金で使えるため、KTは、ソウル市内で移動しながら高速インターネットを使うにはHSDPAよりもWIBROが向いているとアピールしている。

WIBROアクセス端末は2006年まではPCMCIA（Personal Computer Memory Card）であったが、2007年からはUSBモデムに改良され、差し込むだけでWIBROが使えるようになった。この手軽さも契約数増加に拍車をかけている。2007年4月、SK TelecomがHSDPAとWIBROのデュアルUSBモデムを発売し、続いて2007年6月、KTがWIBRO専用USBモデム（KWM-U1000）を発売、定価16万5,000ウォン（約1万7140円）^⑤（換算レート）の当該モデムを無料で提供するプロモーションを開始してから契約数が増え始めた。

KTは、2008年5月31日までに加入した人には加入費3万ウォン（約3,120円）の免除、16万5,000ウォン（約1万7,140円）のUSBモデムの無料贈呈、1万6,000ウォン（約1,660円）のUICC（Universal IC Card：認証チップ）無料贈呈、利用料の当初1ヶ月無料化といったプロモーションを実施している。公式には1ヶ月分だが、ソウル市内の代理店やインターネット代理店では、3ヶ月～6ヶ月分の利用料を無料にする



^④（脚注）

しかし、通信業界では、KTのWIBRO契約数15万8,000回線の大半がモニター会員や無料お試しキャンペーン加入者で料金を払っていないため、ビジネスになっていないとの指摘がある。

^⑤（換算レート）

100ウォン = 10.39円（2008年6月2日の東京市場TTMレート）

プロモーションを実施している。

破格なプロモーションが契約数増加を牽引していることは間違いないが、ブログやWIBROサイトに書き込まれているWIBROユーザーの声は満足度が高く、無料体験が終わってからも有料で利用する意思があるとしている。しかし、プロモーション終了後の料金プランについては発表されないため実際のところはわからない。無料尽くし攻勢で契約数が増加しているとはいえ、WIBROの契約数15万8,000回線は、ソウルのインターネット人口約359万人の4%に過ぎない。まだソウルと首都圏の一部でしか利用できないというサービスエリアの狭さがやはり何よりもネックになっている。

2 KTのWIBROサービス概要

2 - 1 サービスエリア

2006年6月当時、世界で初めて韓国のKTが商用化したWIBROのサービスエリアは、KTの本社があるソウルから南へ1時間ほど離れたベッドタウンの分唐（ブンダン）から高速道路を經由してソウルの入り口にあたる江南、およびソウル市の中心部だけであった。サービスエリアが狭すぎたため契約数が伸び悩んでいたが、2007年4月、ソウル全域（一部アクセスできない場所もある）でサービスが開始され、エリアの狭さは少し解消された。

2008年4月現在、KTのWIBROサービスエリアはソウルと首都圏一部であるが、2008年10月にはソウルと首都圏の17都市に拡大される予定である。KTはソウルと首都圏の大学78校のキャンパスは全てサービスエリアとしてカバーしており、学生向けの激安料金も提供するなど大学生を中心に契約数を伸ばしている。

【図表1】KTのWIBROサービスエリア（2008年4月現在）^①（脚注1）

（出典：KT WIBROホームページ）

2 - 2 WIBRO端末

KTとKTFの代理店で販売されているKT WIBRO対応端末はUSBモデム8種類の他にPCMC1種類、KTFスマートフォン3種類、PMP2種類、モバイルPC4種類、ノートパソコン1種類、合わせて19種類となっている^②（脚注2）。KTは個人向け端末にWIBROを搭載していくとし、2008年末までにWIBRO内蔵デジタルカメラを発売する計画であると発表している。



①（脚注1）

サービスエリアはオレンジ色のソウル市と分唐。灰色は2008年内までにサービス予定地域。

②（脚注2）

Samsung ElectronicsのWIBRO内蔵ノートパソコンSENSE Q-35は2006年春モデルのため現在は生産が中止されており、2008年5月時点で新規購入できる端末は18種類。

2 - 2 - 1 WIBROモデム

USBモデムはWIBROが使えるだけでなくそれぞれ特徴があり、メモリーカード付きの超小型（SWT-H200K）、WIBROとHSDPAを両方使えるもの（SPH-H1300）、2GB容量のMP3プレーヤー付き（LG-KU1P）、スリムデザイン（EV-WM100）、270°回転するHSDPAとWIBROのデュアルモデム（KWC-U2000）などがある。USBモデムは差し込むだけで自動的にWIBROのアクセスプログラムがインストールされるので設定が不要な点が便利である^④（脚注）。

USBモデムの値段は20万ウォン（約2万1,000円）前後だが、KTはプロモーション料金の加入者には無料で贈呈している。USBモデムの中にはUICCというマイクロSDが差し込まれており、この中に加入者情報や決済サービスに必要な情報が保存される。

【図表2】KTのWIBROモデム

KWM-U1000（KTのWIBROに加入すると無料でもらえるUSBモデム）



④（脚注）

SK Telecomからは、HSDPAとWIBROのデュアルUSBモデム「T LOGIN」しか発売されていない。

<p>SPH-H1300 (HSDPA兼用モデム)</p> 	<p>KWD-U1100 (地上波DMB (韓国版ワンセグ) 受信兼用)</p> 	<p>SPH-H1200 (HSDPA兼用)</p> 
<p>SPH - H1100</p> 	<p>EV-WM100</p> 	<p>KWD-U1300 (2GのUSBメモリーとしても使用可)</p> 
<p>LG-KU1P (MP3プレイヤー兼用)</p> 	<p>SPH-M8100</p> 	<p>KWS-P1000</p> 

SWT-H200K



(出典 : KT WIBROホームページ)

2 - 2 - 2 WIBROモデム以外の端末

韓国ではUSBモデムをノートパソコンに差し込んで使うだけがWIBROではない。WIBROは移動しながら使えるブロードバンドで、WIBROを携帯電話に搭載して、インターネットはWIBRO、音声通話はCDMAで利用されている。「インターネットを携帯できる」ということで韓国では携帯インターネットとも呼ばれている。

このようなWIBROの特徴を活かすためにWIBROとCDMAがデュアル搭載されたスマートフォンも発売され、WIBROモデムが内蔵されたノートパソコンやPMP、USBモデム兼MP3プレーヤーといった端末も発売された。WIBRO端末は主にWIBROの設備を手がけている Samsung Electronics が発売しているが、LG ElectronicsもWIBRO対応スマートフォンを発売している。

Samsung Electronicsは、2006年に続いて2007年秋と2008年春にアップグレード端末を販売した。WIBROスマートフォン「SPH-M8200」はWIBROとCDMA 1x EV-DOのデュアル機能搭載で、KTグループの携帯電話事業者KTFに加入することでKTFのサービスも使える。地上波DMB（日本でいうワンセグ）受信、ファイルビューアー、動画編集機能などが搭載されている。値段は80万ウォン（約8万3,000円）台とかなり高額である。

WIBROスマートフォンは、KTFにも同時に加入しないと使えないので、KTFのモバイルインターネットであるMagicNも使えるが、KTは2008年4月よりスマートフォン向けにインターネットアクセス機能を強化したインターフェースに改良、フルブラウザより使いやすいReal Mobile Webサービスを開始した。アイコン式でタッチしやすくし、ユーザーの好みに合わせて初期画面のメニューを編集できる。モバイル環境に合わせてWeb画面表示を自動調整してくれるので、拡大や縮小する面倒がない。しかし全てのインターネットサイトに対応しているわけではなく、KTと契約しReal Mobile Webに対応したポータルやニュース、ショッピング、チケット予約など40社のサイトが利用可能である。

WIBROスマートフォンは、ノートパソコンに比べCPU処理速度が遅く、インターネットアクセスも遅いと感じるとのユーザーの声が上がっており、これに対してKTは、LG Electronics製の806MHzのCPUを搭載したスマートフォン、チョコレート携帯（LG-KC1）を発売することで改善を図っている。

WIBRO複合端末と呼ばれるものもある。Deluxe MITs(SPH-P9200)は WIBRO、WiFi（公衆無線LAN）、HSDPA、CDMAが使えるので、音声通話、テレビ電話も利用できる他、Windows XPも搭載され、普通のPCのように使える。値段は160万ウォン（約16万6,000円）台とかなり高額である。2008年4月にはGPS、ナビゲーション、動画再生、地上波DMB受信などの機能を一つの端末に具備したall-in-one端末として、WIBROコミュニケーター（SWT-W100K）も発売された。値段は50万ウォン（約5万2,000円）台と安く抑えた。

【図表3】KTのWIBROスマートフォン

WIBRO スマートフォン (SPH-M8200)	WIBRO スマートフォン (LG-KC1)	WIBRO スマートフォン (SPH-M8100)
Samsung Electronics	LG Electronics	Samsung Electronics
		
KTのWIBROとKTFのCDMA 1x EV-DOのデュアル 厚さ16.6mm、2.8インチQVGAディスプレイ、地上波DMB、Bluetooth、ファイルビューアー、値段は80万ウォン前後	Monahans 806MHz CPU、MS Windows Mobile 5.0、2.8インチQVGAディスプレイ、200万画素カメラ、地上波DMB、タッチスクリーン	MS Windows Mobile 5.0、WIBRO と CDMA 1x EV-DO兼用、スライド式、MP3、地上波DMB、電子辞書、Bluetooth、2.8インチQVGAディスプレイ、外付けメモリー

(出典：KT WIBROホームページ)

【図表4】KTのWIBRO複合端末

デラックスMITs 2 (SPH-P9200)	モバイルPC (Q1 Ultra)	スリムデラックスMITs (SPH-P9000)
Samsung Electronics	Samsung Electronics	Samsung Electronics
		
2007年8月改良モデル。Windows XP搭載、WIBRO、WiFi、HSDPA、CDMA通話、テレビ電話、130万画素カメラ、30GBHDD、値段は160万ウォン前後	世界初のWindows VISTAを搭載したモバイルPC、厚さ23mm、Intel CPU 800MHz、WIBROとHSDPA兼用	2006年11月、世界初のWIBRO端末として発売。Windows XP 搭載、WIBRO とCDMA1x EV-DO兼用、Intel 1GHz CPU、30GBHDD

モバイルPC (EVERUN S60H)
Raon Digital
 A silver and black mobile PC device, the Everun S60H, is shown. The screen displays the text 'KT WIBRO' and a logo. The device has a QWERTY keyboard on the right side and various ports and buttons on the left side.
Windows XP搭載、AMD 600MHz Geode LX 900、WIBROとWiFi兼用、Bluetooth、200万画素カメラ付き、60GBHDD、標準バッテリーで7時間以上駆動

(出典 : KT WIBROホームページ)

【図表5】KTのWIBRO PMP (Portable Multimedia Player)

SWT-W100K	KWS-P1000
Samsung Electronics	Sodiff E&T
	
4.3インチWVGA LCD、タッチスクリーン、厚さ15.7mm、GPSナビゲーション、地上波DMB、WIBRO、PIP、200万画素カメラ付き、ファイルビューア、Bluetooth	4.3インチTFT LCD、スライド式キーボード内蔵、WinCE、地上波DMB、WIBRO、ファイルビューア、4GB NANDFLASH、200万画素カメラ・Web Cam用30万画素カメラ付き

(出典 : KT WIBROホームページ)

2 - 2 - 3 WIBRO端末の課題

KTとSamsung Electronicsは、WIBRO端末の種類を増やすことに力を入れているが、WIBRO加入数の90%がUSBモデム利用で残りがスマートフォンとPMPという調査結果もあるため、ユーザーとしては、WIBROに対応したスマートフォンやPMPの開発よりもUSBモデムに絞ってサービスエリアの拡大にもっと投資した方がいいという意見が目立っている。USBモデムでWIBROを使うユーザーが最も多いのは、ノートパソコンを持ち歩きながらインターネットを使いたいという理由からであるが、モデムが無料であるからという点も無視できない^(脚注)。



(脚注)

WIBROの主な端末がノートパソコン+USBモデムになっているのは、韓国のパソコン市場の変化とも関係がある。韓国ではオンラインゲームやインターネット放送に適している大きなモニター付きのデスクトップパソコンが好まれていたが、2007年から円安で日本のノートパソコンが安く輸入されるようになったのをきっかけに、パソコン市場は小型、移動性の高さが重要視されるようになり、液晶ディスプレイが10インチ前後のセカンドノートパソコンや7インチ前後のUMPCが売れるようになった。WIBROはこのようなパソコンのトレンドを支える重要なネットワークになりつつあるため、加入の増加が予想より遅れていても、着実に増えることは間違いないとされている。

2 - 3 料金プラン

KTのWIBROに加入するためには加入費3万ウォン（約3,120円）、UICC（認証カード）1万6,000ウォン（約1,650円）、端末（USBモデムなら16万5,000ウォン（1万7,140円）～、スマートフォンなら50万ウォン（約5万2,000円）～、月額利用料金（1万～1万9,800ウォン（約1,040円～約2,060円））^{☞（脚注1）}が必要である。

韓国でも3Gの普及が進むにつれ、携帯電話を利用した高速モバイル通信の料金値下げ競争が激しくなっていることから、WIBROも3Gとの料金競争が避けられない。

WIBROのライバルともいえるサービスにはLG TeleComの新たなモバイルデータ通信サービスがある。LG TeleComは、CDMA2000 1xEV-DO Revision Aを3Gとして「OZ」というブランドで提供している。このプロモーション料金として、携帯電話からフルブラウザ^{☞（脚注2）}でデータ通信を1GBまで使い放題、月6,000ウォン（約620円）の定額料金を提供開始し、1ヶ月間で10万3千回線の契約があったと話題になっている。

これまでの韓国のモバイルインターネットサービスはアクセス料金も高く、キャリアのモバイルポータル経由でしか利用できなかった（勝手サイトにアクセスできない）。LG TeleCom のような安い料金で自由にデータ通信を利用できるサービスが登場したため、WIBROの商品力が相対的に低くなるのではないかと懸念されている。



☞（脚注1）

韓国の通信料金には全て10%の付加価値税が上乗せされるので、実際の請求金額は1万1,000ウォン～2万1,780ウォン（約1,140円～約2,260円）。

☞（脚注2）

LG TeleComのフルブラウザは韓国では初めて自由にインターネットにアクセスできるようになった。従来は携帯電話からインターネットにアクセスするにはキャリアのモバイルサイトを経由しないとアクセスできなくなっており、フルブラウザといってもキャリアと契約したポータルサイトしかつながらなかった。そのため3Gのデータ通信が始まっても、日本のように自由にインターネットにアクセスできる環境ではなかった。月6,000ウォンの定額料金で携帯電話からキャリアのモバイルサイトを経由せず自由にインターネットにアクセスできるようにしたサービスはLG TeleComが初めてである。

【図表6】KTのWIBRO標準料金（料金には全て10%の付加価値税が上乗せされる）^④（脚注）

種類	月額利用料金	無料利用分	超過分
スリム	10,000ウォン	500MB	50ウォン/MB
ベーシック	20,000ウォン	2000MB	25ウォン/MB
スペシャル	30,000ウォン	4000MB	10ウォン/MB
プレミアム	40,000ウォン	6000MB	7ウォン/MB

（出典：KT WIBROホームページ）

2 - 4 プロモーション料金

KTは2008年5月末まではプロモーション料金として加入費免除、UICC(Universal IC Card) 無料、USBモデム無料贈呈、月額の利用料(19,800ウォン(約2,500円)) を1~6ヶ月分無料で提供し、まずは使ってみてほしいと体験キャンペーンを実施している。使ってみた人はWIBROの良さを実感してくれるはずという自信が窺える。またWIBROに加入できる代理店が少ないという不満に対応するため、KTのホームページ上での申込みを可能とし、申込みと翌日にはモデムが届き、すぐに利用できるようにしている。

KTのWIBRO料金の特徴は、WIBRO単独料金よりもKTの無線LAN「NESPOT」を無料で使えるようにしたセット割引である。これによりWIBROのエリア外では全国にアクセスポイントがある「NESPOT」を利用することで、カバレッジの狭さをカバーできる。例えば、学校や会社はソウルにあるのでWIBROが使えるが、自宅は郊外にあるためWIBROのサービスエリア外になってしまうユーザー向けに、ソウル市内ではWIBRO、自宅ではKTのxDSL「Megapass」や無線LAN「NESPOT」を使うようセット料金を提供している。またKTのグループ会社であるKTFの携帯電話とWIBROを同時に利用することで割引が適用される。このように、無線・有線のネットワークを組み合わせたセット料金を提供することで、WIBROのカバレッジが狭いという不満を緩和しようとしている。

また最もインターネットを熱心に使う世代である大学生向けに、加入が指定された大学キャンパス内では月3,000ウォン(約312円)の激安料金でWIBROを使い放題にするサービスを提供し、学生の加入を急増させている。



④（脚注）

標準料金は2008年10月1日以降加入した顧客に適用、データ料金はどれだけ使っても月15万ウォン（約1万5,600円）以上請求されない上限料金を適用。

【図表7】KTのWIBRO料金プロモーション料金（全て10%の付加価値税が上乗せされる）^①（脚注1）

料金プラン	お手頃宣言	自由宣言	W (WIBRO) キャンパス ^② （脚注2）
加入費	30,000ウォン		
月額基本料	10,000ウォン	19,800ウォン	3,000ウォン
基本無料データ	1GB (1000MB)	無制限	無制限
無料データ超過分	約25ウォン/MB ^③ （脚注3）		

（出典：KT WIBROホームページ）

【図表8】KTのWIBRO料金 セット割引（全て10%の付加価値税が上乗せされる）

セット割引	WIBRO + KTF 携帯電話の同時利用	WIBRO + KT無線 LANの同時利用	WIBRO + KT有線ブロードバンド + KT無線LANの 同時利用（3年約定加入が条件）
月額料金	WIBRO10% 割引 + 携帯電話 基本料5%割引	WIBRO15% 割引 + 無線LAN50%割引	WIBRO自由宣言料金のケース 有線ブロードバンド「Megapass Lite」月25,500 ウォン + 「WIBRO自由宣言」月19,800ウォン + 無線 LAN「Nespot」月18,000ウォン（APレンタル込 み）= 63,300ウォン（約6,580円）が32.4%割引さ れた月42,750ウォン（約4,440円）になる。つまり 有線ブロードバンドの月額料金 + 月額17,250 ウォン（約1,790円）で利用できる。
			WIBROお手頃宣言料金のケース 有線ブロードバンド「Megapass Lite」月25,500



①（脚注1）

2008年9月30日まで加入した顧客に限り2008年11月30日まで適用されるプロモーション料金。

②（脚注2）

加入が指定された1箇所の大学キャンパス内で発生したデータに限る。

③（脚注3）

お手頃宣言の超過分はどれだけ使っても月15万ウォン（約1万5,600円）以上請求されない上限料金を適用。

			<p>ウォン + 「WIBROお手頃宣言」月10,000ウォン + 無線LAN「Nespot」月18,000ウォン (APレンタル込み) = 53,500ウォン (約5,560円) が38.4%割引した月32,950ウォン (約3,430円) になる。</p> <p><u>つまり有線ブロードバンドの月額料金 + 月額7,500ウォン (約780円) で利用できる。</u></p>
プロモーション		<p>2008年5月31日まで加入した人は2008年11月30日まで月19,800ウォン (約2,060円) で WIBRO と 無線LANが使い放題</p>	

(出典 : KT WIBROホームページ)

【図表9】KTのWIBRO料金 セット割引 WIBRO + KTFのHSDPA「iPlug」のデュアル利用の場合 (SPH - H1200機種専用料金) (料金には全て10%の付加価値税が上乗せされる)

HSDPA \ WIBRO	iPlugスリム	iPlugベーシック	iPlugスペシャル
	月19,500ウォン/500MB	月29,500ウォン/1GB	月44,500ウォン/2GB
お手頃料金 月10,000ウォン1GBまで (超過分は25ウォン/MB)	計23,600ウォン (約2,450円)へ割引	31,600ウォン (約3,280円)へ割引	43,600ウォン (約4,530円)へ割引
自由宣言 月19,800ウォン無制限	計31,440ウォン (約3,260円)へ割引	計39,440ウォン (約3,420円)へ割引	計51,440ウォン (約5,340円)へ割引

(出典 : KT WIBROホームページ)

3 KTのWIBRO普及戦略

3 - 1 安い料金で手軽に体験

モデム無料、加入費無料、UICC無料、利用料1～3ヶ月無料、月19,800ウォン（約2,060円）で使い放題というプロモーション料金プランを延長し、無料体験を通じて加入を伸ばしているKTのWIBROは、KTのブロードバンドやKTFの携帯電話とのセット割引料金も多様化している。

加入できる代理店が少ないという指摘から手当てされたインターネット代理店から加入すると翌日にはモデムが郵送されるサービスも好評を得ている。さらにマーケティング強化のため、KTは韓国小売最大手のEMART（日本のJUSCOのような大手スーパー）と提携し、2008年3月からはEMARTのソウル店（3店舗）からもWIBROに加入できるようにしている。2008年10月以降、サービスエリアの拡大とともにWIBROに加入できるEMARTの店舗数も増やしていく計画である。

法人向けにはノートパソコンのレンタル料金とWIBROの利用料をセットにしたレンタルサービスも提供している。例えば、東芝のノートパソコンは36カ月契約となっており、「Satellite A200」をレンタルする場合、月19,800ウォンWIBRO使い放題込みで月額48,000ウォン（約4,990円）、「Portege M500」の場合は月額19,800ウォン（約2,060円）のWIBRO使い放題込みで月額52,000ウォン（約5,400円）となっている。

また、KTは2006年から2007年にかけて、WIBROバス、WIBRO地下鉄という体験施設を運営した。バスや地下鉄の車両の中にWIBROのモデムを差し込んだノートパソコンを置いて自由にネットが使えるようにした。WIBROバスは路線バスではなく専用の車両の中にパソコンを置いて予約制で運営されていたが、WIBRO地下鉄は通常の車両だったため、乗客の口コミで「走る地下鉄の中ですすいネットが使える」、「思ったより速度が速い」と評判になった。

3 - 2 ターゲットは大学

KTは無料体験の他にWIBRO普及の重点的ターゲットとして大学を選んだ。大学内のどこからでもWIBROが使えるユビキタスキャンパスを作り、10代後半～20代の大学生を囲い込んでいる。

韓国の大学は、2001年頃から大学の講義をEラーニングとしてパソコンやPDAから受講できるようにしたり、携帯電話に学生証チップを内蔵して、かざすだけで出欠チェックや図書館を利用できるようにしていた。そこでKTは、移動しながらでも高速インターネットが使える、しかもパケット通信より安いとなれば、WIBROは学生

のニーズに合致すると考えた。KTはキャンパス料金として、加入が指定された1箇所の大学キャンパス内であれば月3,000ウォン（約312円）で使い放題という激安料金を開始した。「WIBROキャンパス」と名づけられた大学は、2008年4月時点でソウルと首都圏だけで78校もある。

大学では大学自身が放送しているEラーニングの他に、学生が風邪で欠席した友人のためにWIBRO経由で個人放送局システムにアクセスし、講義内容をリアルタイムで動画配信してあげたり、それを録画して後で復習したりといったことも行われている。大学生はインターネットをもっとも熱心に利用する世代であるだけにWIBROに対する興味も人一倍で、自分のブログやコミュニティサイトにWIBRO体験談を掲載し、口コミで広げる役割も担っている。もちろん体験モニターを募集して無料でWIBROを使えるようにし、いろいろなサイトに口コミ情報を書き込ませたりもした。

大学生は「既存の無線LANは決まった場所でないと利用できないので、電波が届く場所を探してキャンパス内を歩き回る必要があったが、WIBROはキャンパス内であればどこにいても使えるのですごく便利」、「WEBサイトを見るだけでなく動画のダウンロードやアップロードもすいすいできてしまう。携帯電話で撮影した動画をWIBROですぐ自分のブログに掲載できるから面白い」といった感想を示し、これからもWIBROを使う意思をみせている。

KTは2008年には釜山でもWIBROが使えるようにエリアを拡充していくが、釜山での第一ターゲットも大学である。釜山では優先的に釜山大学、東亜大学など4つの大学をWIBROのアクセススポットにする。それから釜山市が計画しているコピキタス都市建設の一環としてWIBROを釜山市全体に拡大していく。

3 - 3 ショールーム「W Style SHOP」の展開

KTは、WIBROショールームをKT社屋内やソウル市中心部だけでなく、学生街である新村（シンチョン）にも設置している。「W Style Shop」という名前がつけられたショールームは、WIBROが使えるノートパソコンやPDA等の端末の展示、販売はもちろん、WIBRO端末を自由に使えるセミナールームもあり、当セミナールームは学生に無料でレンタルしている。

さらにKTは、WIBROの上り速度の速さをアピールするため、WIBRO経由でブログや動画投稿サイトに撮影した動画をその場でアップロードする体験をしてもらおうと、動画撮影スタジオも無料で利用できるようにしている。

KTのWIBROショールームの徒歩圏内にはSamsung Electronicsの携帯電話ショールームもあり、ここにもWIBROを搭載したスマートフォンを展示している。端末を誰でも自由に使えるようにし、同時に販売している。KTは大学生等にWIBROに慣れ親しんでもらおうと、長期的な視点で普及に努力している。

【図表10】 W Style Shopの様子



(1階の入口)



(1階の展示スペース)



(1階に展示された端末 デラックスMITs)



(2007年12月にはWIBROを利用した
モバイルIPTV実験デモも行われていた)

写真：筆者撮影

3 - 4 外国人対象のプロモーション

KTは、2008年6月16日～17日にソウルで開催されたOECD IT大臣会議でも、WIBRO関連の展示や実演を行った。世界で初めてというWIBROを使ったモバイルVoIPも実演された。

また、2008年5月からは仁川空港で外国人を対象に1カ月間WIBROモデム無料レンタルが行われ、6月からは1日5,000ウォン（約520円）の有料レンタルが開始されている。世界でモバイルWiMAXが注目され、導入されつつある中で、WIBROの技術をリードしているのは韓国という印象を与え、関連製品の海外輸出を伸ばすためにも、外国人向け広報活動が積極的に行われている。

4 KTの投資意欲

KTのWIBROへの投資額は2005年が970億ウォン（約100億8,000万円）、2006年が3,000億ウォン（約312億円）、2007年が1,113億ウォン（約115億6,400万円）、2008年は1,200億ウォン（約124億6,800万円）の予定である。これに対してWIBRO関連の売上高は、2007年末までの累計で366億ウォン（約38億円）しかない。

KTの営業利益は固定電話の利用低下に伴いマイナス成長を続けている。携帯電話事業者の加入者間割引が激化していることから、ますます固定電話の利用は減っている。2008年1月～3月のKTの売上は2兆9,670億ウォン（約3,082億7,000万円）、前年同期比0.2%の減少、営業利益は3,330億ウォン（約346億円）で同37.1%の減少であった。純利益は1,541億ウォン（約160億1,000万円）で60.2%も減っている。KTはWIBROの他にIPTV[☞]（脚注）にも力を入れているため、WIBROだけに全力投球できない状況である。

しかし、KTは、将来的には間違いなくWIBROがインターネットアクセスの中心的存在になるだろうと自信を持っている。マーケットリサーチ会社韓国IDCは、WIBROの国内展開、および海外展開に伴う関連製品の輸出は韓国に2012年までに30兆ウォン（3兆1,170億円）の収益と7万5,000人の雇用をもたらすと予測している。KTは苦しい環境にあるが、WIBROの投資を減らすことなく続けていくとしている。



☞（脚注）

KTのIPTVサービス「MEGA TV」の契約数は、2008年4月末時点で57万回線を突破しているが、IPTV契約数では先発事業者であるHanaroの「Hana TV」が首位を占めているため、KTはコンテンツ投資を増やしている。

【コラム】 WIBROによるモバイルVoIPは実現するのか

韓国のWIBROは「通信料値下げ」という課題も担っている。イ・ミョンバク大統領は通信料金を20%値下げして家計の負担を軽くすると公約している。

WIBROのサービスエリアがさらに広がれば、WIBRO1つに加入していれば屋内外で自由にインターネットが使えるので通信費が少なくなる。CDMAのようにライセンス費用を払う必要もなく、韓国の技術を海外に輸出することで国家経済に寄与する部分も大きい。しかもWIBROを利用したモバイルVoIPが登場すれば、移動しながら安い電話まで使える。実際、米国Sprint Nextelは、WIBROを利用して音声サービスまで提供する計画である。

Samsung Electronicsは、モバイルVoIPは技術面ではいつでも始められる段階になっており、後は政府がWIBROに識別番号を与え、インターネット電話のように音声サービスの商用化を認めるかどうかの問題としている。Nokiaをはじめとする世界各国の端末製造業者も、モバイルWiMAXでの音声サポート端末を開発するとしており、世界で初めてWiMAX (WIBRO) を商用化した韓国がこれからも優位を保つためには、モバイルVoIPでも世界をリードしていかなくてはならないとの世論がある。以上を背景に、情報通信部 (MIC) 解体後中断されていたWIBROのVoIP機能搭載についての議論が韓国の通信政策を担当する新しい省庁である放送通信委員会で再開されている。

KTはモバイルVoIPが提供できるようになれば、市場シェアの90%以上を占めている固定電話と合わせてシェアを拡大できるとみている。番号移動制度を利用すれば家の固定電話番号、または携帯電話番号をそのままWIBROのモバイルVoIPに使えるようになる。

WIBROに関してはKTだけが積極的で、実際には、WIBROの事業免許を持っているSK Telecomも政府も関心が低いというのが問題である。政府の組織再編によってWIBROを支援していた情報通信部がなくなり、新しく設立された放送通信委員会は委員長選定に時間がかかり、行政に穴が開いてしまった。こうしたことから、国際標準であるにもかかわらずWIBROへの関心が後退し、投資の遅延、加入数の停滞が起こり、全体として悪循環に陥っているという指摘もある。放送通信委員会の業務が2008年5月中旬から軌道に乗り始めているだけに、KTとSK Telecomが免許獲得の際に提出したWIBROの事業計画通りにサービスエリアの拡大や投資が行われているのかの管理監督も強化される見通しだ。

☞ 執筆者コメント

韓国の事例からすると、日本のモバイルWiMAXは何よりも先にサービスエリアをある程度拡大してから商用化に踏み込むべきであろう。世界初の商用化といってもサービスエリアが狭すぎるというイメージが固着してしまい、ソウル全域で使えるようになった今でもWIBROはソウル中心部でしか使えないという先入観から加入

を躊躇するユーザーが少なくない。

その結果、韓国では結局ユーザー数を伸ばすために体験モニターを数千人単位で募集したり、モデム無料、利用料無料といった価格割引キャンペーンを2年以上も実施したり、ショールームを作ったりと、マーケティングコストが増えてしまい、KTの営業利益はますます落ち込んでいる。このマーケティング費用を最初からサービスエリア拡大に使っていれば、もっと通常料金を支払う加入者を確保できたのではないかという指摘もある。

韓国では、WIBRO対応端末としてスマートフォンやPMPなどさまざまな種類の端末が発売されているが、結局WIBRO用に選択されるのはノートパソコンに差し込むだけで使えるUSBモデムであった。この点を考慮すると、日本でも当面はノートパソコンやPDAに差し込むだけで移動しながら安くブロードバンドが利用できるモデム端末に集中した方がいいかもしれない。

📖 出典・参考文献

KT WIBRO (<http://WIBRO.kt.com/>)
 SK Telecom料金案内 (<http://www.tworld.co.kr/>)
 韓国電子新聞Web版 (<http://www.etnews.co.kr/>)
 Digital Times (<http://www.dt.co.kr/>)
 Financial News (<http://www.fnnews.com/>)
 朝鮮日報 (<http://www.chosun.com/>)
 Naver Blog検索 (<http://blog.naver.com/>)

【執筆者プロフィール】

氏 名：趙 章恩（チョウ チャンウン）
 所 属：KDDI総研特別研究員 東京大学大学院学環・学際情報学府修士課程1年
 ITジャーナリスト
 専 門：韓国の情報通信市場制度、Wibro、放送通信融合、モバイル、デジタルコンテンツなど、韓国をテーマとするあらゆるジャンルの調査を担当
 外 部 寄 稿：日経オンライン IT先進国・韓国の素顔
 (<http://it.nikkei.co.jp/internet/column/korea.aspx>)
 日経パソコン Korea on the Web
 (<http://pc.nikkeibp.co.jp/article/NPC/20070222/262980/>)
 その他、日経エレクトロニクス、BCN（ビジネスコンピュータービュース）、夕刊フジ、経営者会報、韓国月刊誌「Media+Future」など
 著 書：「韓国インターネットの技を盗め」アスキー出版（日本）2001年
 「日本インターネットの収益モデルを脱がせ」ドナン出版（韓国）2001年